

令和4年第8回高梁市教育委員会（定例）会議録

1. 招 集 令和4年7月22日 午前10時00分
2. 開 会 令和4年7月22日 午前10時00分
3. 閉 会 令和4年7月22日 午前11時40分
4. 会議の種別 定例会（第1日）
5. 会議の場所 高梁市役所 4階大会議室1・2
6. 出席、欠席した委員の番号及び氏名

委員の氏名	出欠の別	備 考
藤 井 祥 生	出 席	
吉 川 昭	出 席	
川 上 は る 江	出 席	
渡 邊 あ り さ	出 席	

7. 説明のため会議に出席を求められた者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
—	—	

8. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
教 育 次 長	上 森 智 子	
参 与	福 原 洋 子	
参 与	田 村 啓 介	
教 育 総 務 課 長	藤 井 聡 美	
こ ども 教 育 課 長	荒 田 真 一	
社 会 教 育 課 長	伊 丹 誠	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	松 本 武 士	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	福 本 真 紀 子	

9. 会議に付した議案の題目及びその結果

議案番号	件名	結果
議案第72号	高梁市立川上学園学校運営協議会委員の委嘱等について	可決
議案第73号	高梁市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	可決
議案第74号	高梁市立幼稚園条例の一部を改正する条例	可決
議案第75号	令和5年度高梁市立小学校使用教科用図書の採択について	可決
議案第76号	令和5年度高梁市立中学校使用教科用図書の採択について	可決
議案第77号	令和5年度高梁市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について	可決
議案第78号	令和5年度高梁市立高等学校使用教科用図書の採択について	可決

10. 会議録署名委員の氏名

藤井 祥生

渡邊 ありさ

11. 議事の内容

別紙会議議事要録のとおり

第 8 回教育委員会（定例）会議議事要録

1. 開会

教育長職務代理者あいさつ

第 8 回高梁市教育委員会（定例会）を始めます。

本日は、教育長が欠席のため私が職務を代理し進行を務めます。

本日は議案 7 件です。よろしくお願いします。

2. 前回教育委員会の報告

こども教育課長	第 7 回教育委員会の議案の一部に誤りがあったため、訂正し承認を求める。議案第 65 号「高梁市立川上学園学校運営協議会委員の委嘱について」について、委員名を訂正する。
教育長職務代理者	何か質問等あるか。なければ訂正を含め前回教育委員会の報告の承認に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手)
教育長職務代理者	前回の会議録は、承認する。

3. 教育長の報告

(1) 行事等

7 月 1 日(金)	社会を明るくする運動（保護司会）総理大事メッセージ伝達式
7 月 2 日(土)	高梁みらいづくりカレッジ
7 月 3 日(日)	成羽美術館清掃ボランティア 旧吹屋小学校来校者 1 万人達成
7 月 4 日(月)	校長選考面接
7 月 9 日(土)	成羽美術館特別展オープニング（～9/4） —念ずれば花ひらく—詩人 坂村真民の世界
7 月 11 日(月)	校長選考研究会
7 月 19 日(火)	吉備国際大学 Charme 岡山高梁助成金贈呈式 教育長連絡会議
7 月 20 日(水)	激励金交付壮行会 ・ヤングリーグ選手権大会、全日本中学野球選手権大会 ・全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会 ・全日本女子軟式野球選手権大会 ・全日本小学生女子ソフトボール大会 ・全国高等学校卓球選手権大会 ・全日本一般男子ソフトボール大会

4. 議事

こども教育課長	議案第 72 号「高梁市川上学園学校運営協議会委員の委嘱等について」は議案に沿って事務局より説明。
教育長職務代理者	何か質問等はあるか。なければ可決に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手)

教育長職務代理者	議案第 72 号は、原案のとおり可決する。
教育総務課長	議案第 73 号「高梁市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について」は議案に沿って事務局より説明。
教育長職務代理者	何か質問等はあるか。なければ可決に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手)
教育長職務代理者	議案第 73 号は、原案のとおり可決する。
教育総務課長	議案第 74 号「高梁市立幼稚園条例の一部を改正する条例」は議案に沿って事務局より説明。
教育長職務代理者	何か質問等はあるか。なければ可決に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手)
教育長職務代理者	議案第 74 号は、原案のとおり可決する。
教育長職務代理者 こども教育課長	議案第 75 号から 78 号は関連があるので一括して説明を願う。 議案第 75 号「令和 5 年度高梁市立小学校使用教科用図書の採択について」 議案第 76 号「令和 5 年度高梁市立中学校使用教科用図書の採択について」 議案第 77 号「令和 5 年度高梁市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について」 議案第 78 号「令和 5 年度高梁市立高等学校使用教科用図書の採択について」は議案に沿って事務局より説明。
教育長職務代理者	議案第 75 号から 78 号について何か質問等はあるか。なければ一括して可決に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手)
教育長職務代理者	議案第 75 号から 78 号は原案のとおり可決する。

5. その他

(1) 教育委員会の事務に関する点検評価報告書について

教育委員	教育行政重点施策の報告の際にも質問したが、その当時は数値データがない状態で今回はすべてデータが入っている。その時はまだ途中経過だから数値を入れられないという答えだったが、国のデータを待ってからしか入れられないものもあるだろうが、市の施策なのだから途中経過でも出すことはできないのか。やはりデータに基づいてでない方針をどう判断し評価すればよいのか。ある程度のデータがあったほうが判断しやすいと思う。
教育次長	入館者数や利用者数であれば直接事務局でデータを把握できるので途中経過であってもお示しできる。学校へ調査しないと把握できないものは、学校への負担を考慮し途中経過で調査することは避けている。
教育委員	例えば「たくましく、心やさしい子どもを育てます」の施策だが、たくましく心やさしい子どもをどう評価するかというのは難しい。目に見えないものをどう評価するというのは難しく、すべて数値だけで評価していくと、評価のための評価になったりする危険性もあるということ踏まえたうえで考えていく必要がある。ここに挙げられている「学校に行くのは楽しいと思う」「いじめはいけないことだと思っている」というのも指標のひとつだと思うが、不登校やいじめの件数はどうなっているのか、という数値も併記してみてもどうか。今後の方向性についてももう一步踏み込んでよいと思う。 子どもの読書活動の推進施策について、セカンドブックやサードブックの継続事業は価値があると思うが、もらって当たり前のような意識にならないように、読書活動の推進という本来の目的をもう一度振り返って、施策を見直したり本を有効活用する必要があるのではないかと思う。

(2) 「高梁まちなか美術館」について（教育委員会事務局参与）

参与	市内高等学校の教育活動への理解促進と、高等学校の教育の魅力発信を行う取組の一環として、県立高梁城南高校デザイン科の生徒が授業で制作した作品を、学校外で展示し鑑賞していただくという企画を行っている。第1シリーズとして、中学校への展示を行った。進路を考えたり、身近な高校をよく知っていただく機会になるかと企画したところ、次年度も開催してほしいという声が上がっている。新聞やテレビのメディアでも取り上げられ、全県的に高校をPRするよい機会となった。今後第2シリーズとして、公民館や病院等への貸出を企画している。小学校と高校との連携も非常に効果的で、小学生が自慢のふるさとのここを描いてほしいという場所を高校へ提案するという事を考えている。
教育委員	宇治高等学校を訪問したが、敷地内に小学校があり自然発生的に交流が生まれている。高校生は小学生と関わる中で随分変わってきていて、連携がうまくいっていると感じた。
教育委員	中学生が高校生の作品を鑑賞して感動したと思うし、こういう経験を積み重ねることは目に見えないが、志をたてることに繋がるのではないか。高梁高校の家政科展との連携や、逆に小学生が描いた児島虎次郎賞の受賞作品を老人福祉施設や高校に展示してみてもよいのでは。吉備国際大学との連携も有効かと思う。

(3) 成羽美術館特別展について（社会教育課）

(4) 高梁市民プールの開設について（スポーツ振興課）

(5) 兵庫県川西市教育委員会視察について（教育委員）

教育委員	兵庫県川西市の教育委員会を視察した。定例会の次に協議会というものがあり、提案される施策は未完成のもので、事務局と教育委員が相互にいろいろ話をしながら案を練り上げていくための協議会であった。次回の教育委員会や総合教育会議へのステップといった感じであった。事前に課題が出され、それについて一人ひとりが考えをもって協議会に臨み、皆で協議されていた。教育長は、レイマンコントロールとしての教育委員を活かしたいとおっしゃっていた。教育委員の活動報告もあり、各々がいろいろな施設を周り、その報告を行っていた。他市の教育委員会視察するのは初めてだったが、やはりいろいろなものを見ないと井の中の蛙だと改めて実感した。
------	--

6. 閉会 午前11時40分閉会

高梁市教育委員会会議規則第21条第2項の規定により、ここに署名する。

令和4年8月25日

署名委員 渡邊 ありさ

署名委員 蔭 祥生

作成職員 福本真紀子